

【特別対談】

# 地域貢献と人材育成、国際化について語り合う 輝ける未来へ

大阪国際大学の川村副学長、久保田副学長をお招きし、宇佐美選手、大森選手とのスペシャル対談が実現。地域貢献や人材育成、さらには国際化について、両者の立場から熱い議論を交わしました。

インタビュー＝山本剛央 Interview by Takeo YAMAMOTO  
写真＝CORACAO 齊藤友也 Photo by CORACAO Tomoya SAITO



優勝できれば、地域の皆さんの生活習慣の中にガンバが入っていけると思う  
——宇佐美

6月1日より大阪国際大学とガンバ大阪はパートナーシップ協定を結ばれました。今後は教育・研究・育成、地域・社会貢献、東南アジア地域の分野で相互協力し、地域の発展と人材育成に寄与されることを目指して活動されていくとのこと、今回の特別対談の場が実現しました。まずは、宇佐美選手、大森選手、今シーズンここまでを振り返ってみて、いかがでしょうか？

**宇佐美** リーグの中断期間前は16位と降格圏に位置し苦しみましたが、後半戦は好調を維持できています。苦しい時期があったからこそ今の充実があると思いますし、チーム力も高められている。すごく良い状態だと思いますね。

**大森** チームは確かに好調ですが、僕自身は全然結果を残せていないので、これからの試合で少しでもチームの勝利に貢献できるようにやっていきたいです。

**川村** 私はラグビーが専門でサッカーは素人なので

ですが、16位から2位(第27節終了時)へのジャンプアップというのは、プロのスポーツ界全体でも珍しいことだと思います。一気に順位を上げられた一番の要因はどこにあるのでしょうか？

**宇佐美** やはり中断期間が大きかったと思います。16位だっただけに危機感を持っていいトレーニングができました。

**大森** 2回のキャンプの中でチームの課題を改善しつつ、選手たち同士もよく話し合いましたからね。それが今につながっているのかなと。

**久保田** 私はソフトボールが専門なのですが、大学でも多くのクラブが試合をしています。うまくいかない時に、どう次につながっていくかは共通のテーマです。好調を維持している現在、どういう心持ちで試合に臨んでいますか？

**宇佐美** 長谷川(健太)監督の考えがブレないという点もあり、勝ったからといって一喜一憂する雰囲気はありません。勝っても浮かれることなく、すぐに次の試合に向けて集中できています。

**大森** 一戦一戦、大事に戦っていくという意識が浸透していると思いますね。

**川村** 私は長い期間、高校でラグビーを教えています

域の盛り上がりにもつながっています。選手として、その辺りは強く意識されていますか？

**大森** そうですね。盛り上がりが出てくるかなと思いますけど、まだまだスタジアムが満員にならないので、もっと頑張りたいという意識が浸透していると思います。

**宇佐美** 僕は元々ガンバのサポーターでしたから、勝敗や順位がお客さんの数に影響することは十分に分かっています。そういった意味でも、今のガンバには大きなタイトルが絶対に必要。優勝できれば、地域の皆さんの生活習慣の中にガンバが入っていけると思っていますから、そこを目指していきたい。ご飯を食べる、寝ると同じレベルに、ガンバの試合を観に行くことをもっと根付かせていければと思っています。



僕たちが貢献できる唯一の手段はピッチで結果を残していくこと  
——大森

**川村** 大学に限らず、現代の教育機関も地域との結びつきをいかに強めていくかは大きなテーマになっています。大阪国際大学も能動的に動き、地域の皆さんに身近に感じてもらわなければいけません。何かいいヒントはないでしょうか？

**宇佐美** そうですね……。お客さんにスタジアムへ足を運んでもらうところは、ガンバのスタッフがしっかりと頑張っています。それに対して、僕たち選手はピッチの上で魅力的な試合を見せる。やはり、来てもらっても試合が面白くないと全く意味がないと思いますから。

**大森** 「また観に来たい」と思ってもらえるかどうか。そこが大事ですね。

**久保田** 大学で行っている教育を地域の皆さんにも還元していきたいと考えています。私どもは国際大学ですから学生には積極的に海外へ行ってもらう、様々な経験を積み、それを地域に還元していく。そういったサイクルを作っていければ、宇佐美選手はドイツでプレーされていました。日本との違いを感じた部分はどこありましたか？

**宇佐美** やはり日常的にサッカーがある、という



ところでですね。文化として完全に根付いています。クラブを応援するのが当たり前というところですか？

**宇佐美** 言葉です。サッカーをするぶんには理解できていたのですが、日常生活において細かいニュアンスを伝えられない。そこがネックとなって、選手のコミュニケーションにも入り切れませんでした。反省点というか、僕自身が未熟だったなと思います。

**川村** 今の大学生は海外留学に消極的な学生も多いのですが、海外を経験することで得られたものは大きかったですか？

**宇佐美** キャリア的には遠回りしたかもしれないですけど、行って良かったと思っています。向こうにいる時は苦しく、つらくもありましたが、今こうしてガンバに帰ってきてドイツでの経験が生きています。ですから、学生の皆さんにもどんどん海外を経験してほしいと思いますね。

**川村** 大森選手の考えはいかがですか？

**大森** 海外留学に消極的な学生が多いのは、日本の



Koji KAWAMURA  
**川村幸治**  
(大阪国際大学 副学長)

大阪国際大学 副学長、教授  
元大阪府教育委員会事務局 教育監、元日本ラグビー協会強化委員、日本代表コーチ・学生日本代表監督・U23日本代表監督・高校日本代表監督等を務める。

Toyoshi KUBOTA  
**久保田豊司**  
(大阪国際大学 副学長)

大阪国際大学 副学長、人間科学部教授  
全日本大学ソフトボール連盟副理事長。  
2009年ワールドゲームズ、2007年ユニバーシアード女子日本代表監督を務め、金メダル・銅メダル獲得に貢献。

Takashi USAMI  
**宇佐美貴史**

Kotaro OMORI  
**大森晃太郎**

環境が恵まれ過ぎていてということが影響しているかもしれないですね。正直、僕も日本がいいなと思います(苦笑)。

**国際的な人材を育成される上で、重要なことは何だとお考えになりますか？**

**久保田** 自己表現力を身に付けさせること。そのためにはまず自己を理解し、海外に行くためには日本のこともしっかり理解する必要があります。その上で、自分の能力や考えを主張できる人間になっていってもらいたいと考えています。

**川村** そうですね。自分自身をきちんと出し切れるかどうか。かつ全体を見る視点も持っている。これから日本人がどんどん世界に出ていく中で、どう自分を表現していくかが大事になると思います。

**ガンバは今シーズン、アジア戦略を打ち出し東南アジアでの活動においては、大阪国際大学と協業していくと聞いています。ガンバがアジアでの人気拡大を図っていく上で、選手としてどう貢献していきたいと考えていますか？**

**大森** 僕たちが貢献できる唯一の手段は、ピッチで結果を残していくことに尽きると思います。まずはアジアチャンピオンズリーグの出場権を得て、アジア各国で試合をする。ガンバのことを知ってもらわないと何も始まりません。

**宇佐美** 繰り返しますが、タイトルを獲得することが大切。アジア王者になれば、知名度も人気も一気に上げることが出来ます。

**川村** 本学はアジア諸国の多くの大学と提携し、学生の交換留学も積極的に行っています。アジアの一流企業にも学生を派遣しています。よって、アジアでの活動においてはガンバさんと協力して、いろいろなことにチャレンジしていきたいと考えています。

**久保田** 東南アジアへ活動の場を広げていくというのはガンバさんと本学の共通するテーマです。力を合わせることで、より大きなことを成し遂げられるのではないかと期待しています。お2人の力もお借りすることがあるかもしれません。ぜひご協力お願いします。

**宇佐美** もちろんです。

**大森** よろしくお願います。



チームが勝てば、ファンの方や地域の皆さんにも喜んでもらえるでしょうし、優勝争いに絡むことで地